

雑誌「BG : BG 研究 100 周年記念号」(2005 年 5 月号) 別刷

■ 概略

ドイツの法的損害保険を担う BG (ドイツ職業保険組合) は、2005 年に「BG 研究 100 周年」を迎えます。そのため、雑誌「BG」5 月号では重点的にこのテーマを扱います。BG は、自身の予防策・リハビリテーション活動に関する研究を効果的かつ効率良く行うよう目標を設定しています。研究発展の経緯に関する興味深い情報の他、BG の取り組む問題提議、追求する研究、達成結果の実践化など、実践的・最新の例示が明らかにされています。

■ 編者の言葉・・・217 ページ

J.Breuer 著

■ BG 研究 100 周年—回顧と展望・・・220 ページ

共同執筆

100 年前から今日に至るまでの BG の研究概略を述べ、労災保険への新たな挑戦を明らかにします。技術開発上や労働界での流れにおける変化により、研究テーマと重点が流動・変化し続けている一方、狭い範囲での労働・健康保護・リハビリテーションに関する職業保険上の研究活動が行われています。この章だけで、全研究分野と専門領域の歴史的全容を述べることは出来ないため、模範的なテーマを抜粋し、その根底・結果・将来必要とされる要求が記述されています。

■ BG 研究の特徴・・・237 ページ

K.Meffert, M.Rentrop 著

BG 運営上の法的委託・担当分野としての研究が行われ、様々な政治的視野からの労働安全研究が明らかにされています。また、BG の予防方策関連の研究における指導要領の実践的な進展状況について報じられています。このような指導要領は、BG の目標・特徴・重点・優先事項から成立しています。

■ BGIA (ドイツ職業保険組合・労働安全研究所)・・・242 ページ

K.Meffert 著

当初から今日までの BGIA の発展について述べられ、理髪作業時の気道負担、裁縫作業所での人間工学、機械の安全性におけるハイテク技術、工事現場での騒音負担、コールセンターでの労働条件の改善などいくつかの例示により、研究テーマの作業方法・多様性が明らかにされています。

■ BGAG (ドイツ職業保険組合・労働健康研究所) …249 ページ

B.Pfeiffer 著

BGAG の発展の経緯・課題・重点を置いた研究への概要が述べられ、「予防における品質—BG の予防方策の効力・経済性」といった具体的な研究プロジェクトにより、複数の専門領域にまたがる問題提議への研究所の着手方法（プロジェクト段階、調査目的・範囲・使用方法）が明らかにされています。

■ BGFA (ドイツ職業保険組合・労働医療研究所：ルール・ボックム大学研究所) …255 ページ

T.Brüning 著

BGFA の発展の経緯と、BG 研究所およびルール・ボックム大学研究所との位置付けについて述べられています。また、2003 年には、BGFA の 5 つの専門知識センターが設立され、重点的に研究がされています。ラテックス・アレルギー、木屑による鼻のアデノ癌、ビツメン・膀胱癌の早期発見・ポリ芳香の炭化水素・病気の早期発見に対する改ざんされた診断などの具体例により、予防方策といった労働医療上の知識を実践に適用する研究所の課題・プロジェクトが紹介されています。

■ HVBG (ドイツ職業保険組合連盟) の研究促進…263 ページ

V.Giegerich・J.Hermann 著

HVBG の研究促進に関する周辺条件と基盤を扱っており、研究材料の分担、経営機構、促進度合、研究基金の財政上の見通しについて報じられています。職業上の皮膚病・アスベスト起因の腫瘍の早期発見、石綿肺でのリハビリテーション、脊髄症での服用作用関係へのケース・スタディ、労災後の精神的障害、運転装置の開発などの研究促進の広範囲なテーマについて、いくつか例示が挙げられています。

■ IGF (危険物質研究所) …269 ページ

D.Dahmann 著

BG 鉱業部門の研究所で、創立 75 周年を迎える IGF の発展の経緯について述べられています。また、研究所の最重要課題として、特に危険分野に重点を置いた調査・教育が挙げられます。

■ 安全技術センター…271 ページ

R.Ebenig 著

ラインランド・ヴェストファーレン州での BG 建設部門との機構上の関連性と、装置の作業方法について述べ、研究プロジェクト「建設時の天候対応着について」例示がされています。

■ 電氣的事故調査機関・・・272 ページ

J.Juehling 著

BG 精密機械・電気部門での電氣的事故の調査に関する経緯・作業方法・重点について概要が述べられています。

■ FSA (応用システム安全・労働医療研究協会)・・・273 ページ

S.Radandt 著

公益法人としての FSA の任務と機構について概要が述べられ、その目的・課題・重要作業について解説されています。

■ BG の研究活動・・・274 ページ

共同執筆

BG は、HVBG から財政支援を受け装置を共有するだけでなく、他の学術研究所・会社とも協力し、研究を行っています。特に、危険状態・専門分野の問題提議に関する研究活動について、例示が紹介されています。また、鉱業・石・地面・金属・電子技術・化学・食品・レストラン・建設業・貿易・交通・健康関連分野に研究対照が置かれています。

■ 細胞・良性移植組織・遠隔医療など最新の BG 病院の研究プロジェクトー選択・・・284 ページ

共同執筆

ドイツの 9 つの労災救急病院、2 つの労災病院の研究プロジェクトに関する概要が述べられています。プロジェクトの多くは、重傷者の多重性精神的外傷、骨折時の安定測定、良性移植組織、傷カバー用の吸収可能シート、自己細胞による新しい骨、軟骨細胞改良・移植、保存された骨移植の品質向上、踵負担軽減、頸椎軟部捻挫、大脳皮質による盲目時の遠隔リハビリテーションなどの例示について短くまとめています。

■ ビスマス研究に関する BG の貢献・・・291 ページ

D.Koppisch・H.Otten 著

1990 年のドイツ統一で、BG は、旧東ドイツでの職業病補償についても受け持ち、特に問題視されたのが、SDAG ヴィスマートでのウラン鉱石採掘における発病で、その研究プロジェクトの結果について短くまとめられています。

■ 国・国際レベルでの BG の労働安全研究・・・293 ページ

D.Reinert・K.Meffert 著

我々は正しいことを行っているのか？労働安全研究において、将来的に正しい優先順位を行っているのか？ BG 研究の国・国際レベルでの比較はどうか？といった問いに対して、2003 年には 8 つの国の 9 つの研究所による約 1,000 の研究計画を分析し、労働安全研究での優先順位を国際的に比較しています。

■ IGA (健康・労働のイニシアチブ)・・・298 ページ

F.Jahn 著

1990 年半ばから、事故災害保険の担い手としての HVBG と社内健康保険組合間での協働作業が、労働健康上の危険防止と経営上の健康促進を目的として行われてきました。そのような背景の下、精神的に誤った負荷に関するプロジェクトがその一環として報告されています。

■ KAN (労働安全・規格コミッション) の研究・プロジェクト・・・299 ページ

J.Lambert 著

KAN は、国家・社会の参加構成員・事故災害保険の担い手・規格機構 DIN (ドイツ規格) などにより、全労働安全事例について規格化が出来るフォーラムである。特に、プロジェクトの推進・規格への専門家の所見による機構、装置の作業方法について述べられています。

■ ボン・ライン・ジーク大学 (応用科学大学) の社会保険・損害保険課程への研究委託・・・300 ページ

G.Sokoll 著

BG は、2003 年に、ボン・ライン・ジーク大学 (応用科学大学) と協働し、将来的に管理上級職を想定した教育として、Bachelor 課程を導入・実現化しました。その専門領域の機構・研究プロフィールについて、報告されています。

Further information:

www.dguv.de and info@dguv.de